

## 【議事概要】

### 独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）の18年度年度計画等について

文科省の奈良課長とJAXAの川上部長がJAXAの中期目標の変更と18年度計画を説明したあと、以下の質疑応答があった。

①「行政改革の重要方針」を受けた人件費削減、②「業務・システム最適化」を受けた対応、③ISS計画の変更に伴う見直し、④H-IIA能力向上形態からH-IIBへの名称変更の4点である。中期目標は変更されたが、18年度計画分には大きく影響していないような口ぶりに感じた。また、資料に添付された18年度計画の説明は省略したが、GXは開発研究を進めるものの、重点技術に取り上げることを差し控えたこと、準天頂衛星は考え方を整理中であるが、設計を進めていくつもりであることの二点を口頭で説明した。

青江：(GX ロケット開発に関して)「前年度同様に」との説明であったが、それでは困る。

川上：LNG ロケットの開発を進めるということである。

青江：そのようにきちっと説明しなければならない。

松尾：「システムエンジニアリング<sup>1</sup>強化」と言っている。これが解りにくい。今でなくていいから説明して欲しい。

川上：(説明していたがメモしなかった。)(別途機会を作ること

---

<sup>1</sup> 全く同感である。今までにない概念であり、英語国アメリカで発案されたので、カタカナ語になって致し方ない。しかし、概念を共有しにくい。使わなくて済むものくらいはカタカナ語を控える努力が必要と思う。

になった。)

野本：給与に成果主義を取り入れるとの説明であるが、どんな成果を出せば認められることになるのか。

川上：職種がいろいろあるので、一まとめに話せる内容ではない。(と良く解らない説明を続けた。)

野本：(不満足そうであったが質問を打ち切った。)

井口：18年度計画を全部読んだ。細くなるが少し質問したい。「管理部門の統合及び簡素化」とあるが、プロジェクトマネジメントも管理と翻訳できる。管理とは何か。

川上：経理、財務、総務といった事務職を指す。

井口：大学や研究所などと協力して開発を行っているのであろうが、文面に記載されていない。記載が無くても良いが、(外部との協力を)しっかりやって欲しい。また、統括責任者の名称が列挙されている。マネジメントの段階が長過ぎはしないか。

川上：ここに示した名称の責任者が総て縦に並んでいるのではない。職種によって呼称が違うもの、横通しのマネジメントをするものの呼称を列挙したものである。

井口：情報マネジメントの記事でセキュリティーに言及していない。これからはリスクを考えた管理をしていかなければならない。しっかりやって貰いたい。また、信頼性管理、コスト管理もしっかりやって貰いたい。

日本だけではどうにもならないのがISSである。これはリスクが大きいと思っている。

射場の設備が老朽化してきている。この対策も必要であろう。

「技術基盤強化」に「信頼性向上」を入れて欲しい。  
H-IIAを民間に移行するのは良いが、衛星のプライムコントラクター化は進んでいるのか。ここに書く必要はないが、進めてもらいたい。

独立行政法人「情報通信研究機構」の名称が書かれている。他の機関とも連携をしている中で、一つだけの名称が示されているのは唐突に感じる。何なのであろう。

「共通基盤技術」の項に、「一発勝負の信頼性管理」を加えて欲しい。また、基本設計をやる人が現場を知らないのでは旨くないか。<sup>2</sup>産業界との交流を深めて欲しい。

川上：信頼性向上のための予算は一つに纏めて示されているが、実行は各部門それぞれが行う。それぞれが期待に答えてくれるものと思っている。プライム化の件はしっかりと進めている。センサーの開発が先にあるプロジェクトのメーカ選定が後に来ることがある。このような場合にはプライムに一任とはいかないので、容赦願いたい。

青江：委員長がコストのことを指摘された。評価部会ではプロ

---

<sup>2</sup> 全面的には賛成できない。現場を知っている方が有利なことは沢山あるかもしれない。知らなくても旨くやれるのが技術だとも言える。駐在中にシンクタンクを使うためにリクワイアメントを書いた。これが旨く書けるか否かで、成果の良し悪しの殆どが決まってしまうことを経験した。どうやって技術を身につけられたのか自分でよく解らないが、経験を通じて良いリクワイアメントが書けるようになった。JAXAの基本設計はこのリクワイアメントに相当する仕事である。詳細設計が出来なければ基本設計が出来ないというものではないと思う。

ジェクトの意義と共にコストも聴いている。このプロジェクトが大体いくらで実行できるかということはある程度値踏めるが、コストエフェクティブネスは評価できない。「国の威信」<sup>3</sup>など、成果が測れないものがあるためである。

井口：コストの議論は大変幅広いものである。その一端であるが、アリアンの〇〇さんと話す機会があったが、H-IIAは高い<sup>4</sup>と言っていた。

森尾：一番のポイントは国の予算をいくらにするのかということ。その範囲でプライオリティの順に従って分けていけば良い。JAXAの誰の責任かはっきりさせておき、…

松尾：「コストエフェクティブネス」とは、美しい言葉であるが実効がない。金を与えて最大の成果を求めるか、目標を定めてできるだけ少ない金で達成させるか、と云うやり方のほうが取組みやすい。

森口：JAXAの弁護をするわけではないが、割合とうまく管理されてきたと考えている。中に大きくずれが生じるものがある。

川上：開発コストが増加するものについて、未知への挑戦であったことから予測できなかったことか、設計の検討不十

---

<sup>3</sup> もっと違う言葉のほうが適切だと感じるが、端的な言葉を思いつかない。「長期的な国家の安定・存続」は長すぎる。

<sup>4</sup> これは製品の生産コストのこと。他の方々は開発コストの発言。話が噛み合っていない。井口委員長の観点は大切に議論しなければならない。H-IIAは商業化を目指しているのだから。

分によるものか、きちっと評価してきた。H-II B のコストオーバーラン（ここできえぎられる）

井口：H-II B のことは聞いていないが。

川上：（言い訳）

松尾：予算の環境が厳しくなって、返って（コストを抑えた開発のための）環境が整ったと思いますけれど。